



プロジェクト課題No.2 市場等ニーズに応じた花き・花木生産 による経営発展

対象名：株式会社南三陸Pine Pro(パインプロ)

計画期間：令和3年度～令和5年度

担当チーム員：◎須藤、平、櫻田、猪野



1 今年度の目標

- ① 地域に適したクロマツの栽培技術が確立され、出荷量が増大する。
- ② 品種選定や開花調製技術の習得により、需要期にきくの安定出荷が可能となる。
- ③ クロマツときくの生産体制が整備され雇用が創出される。
- ④ 法人の経営面積（クロマツ及びきく）
R3：2.44ha⇒ R4：3.04ha⇒ R5：5.0ha（目標）

2 今年度後半の活動事項

① クロマツ省力栽培と出荷調製作業の軽労化の検討
収穫・出荷調製作業の検討

② 小ギクの地域適応性と商品性の把握
商品性の検討

③ 経営統合に向けた調製と従業員雇用の支援
専門家現地相談会実施支援

3 これまでの活動と成果1-2

① クロマツ省力栽培と出荷調製作業の軽労化の検討

⇒ 作業方法をカイゼンすることで、パート社員の作業性が向上!



令和4年の枝葉除去作業

カイゼン



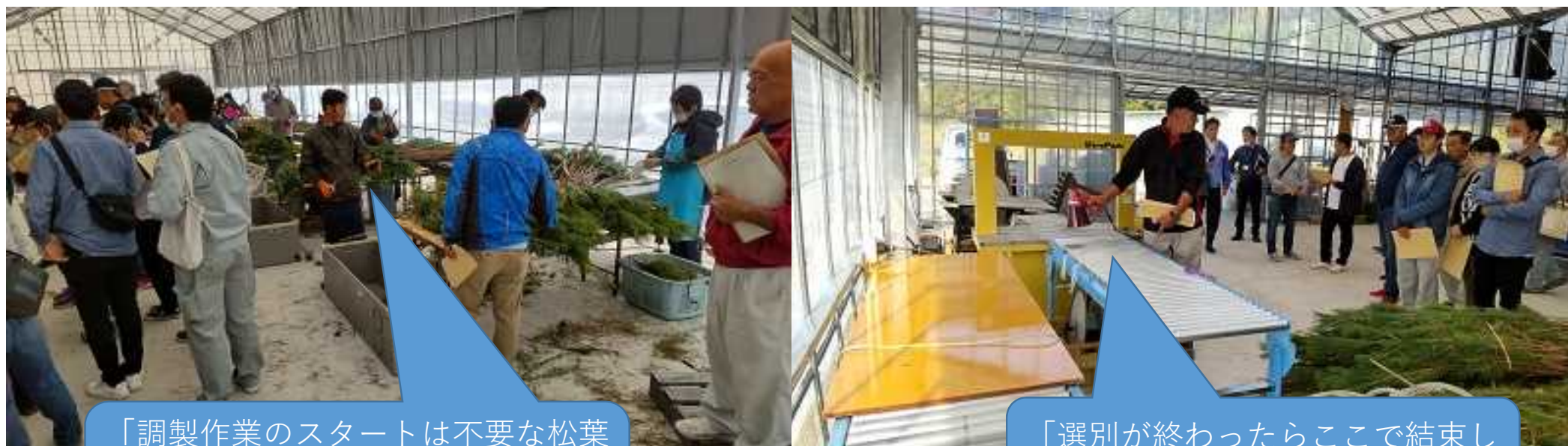
令和5年の収穫作業及び枝葉除去作業
作業効率が前年比1.5倍に向上
人件費が前年比40%に圧縮

3 これまでの活動と成果1-3

① クロマツ省力栽培と出荷調製作業の軽労化の検討

クロマツ生産者育成として、クロマツ出荷調製作業研修会の開催

⇒ 出荷調製の作業手順を見学し、参加者に調製作業を学んでもらった。



「調製作業のスタートは不要な松葉と枝を落とす作業」となにわ花いちばの担当者が説明

「選別が終わったらここで結束して切り揃える」と後藤代表が説明

3 これまでの活動と成果1-4

- ① クロマツ省力栽培と出荷調製作業の軽労化の検討
クロマツ生産者の確保としてクロマツ産地見学会の開催

⇒ 気仙沼市内の農業者4名が参加してくれました。



気仙沼市小泉のほ場を参加者2名が見学



南三陸町の収穫ほ場を参加者2名と市役所職員が見学

3 これまでの活動と成果2

② 小ギクの地域適応性と商品性の把握

⇒ 姿・色形は良いと思うが、小ギクよりは黄色の輪ギクが欲しい！



「精きくゆう」
外観やボリュームなど品質は良いが・・・



「奇のだるま」
仏花の主役は黄色の輪ギクなのでこちらが欲しい

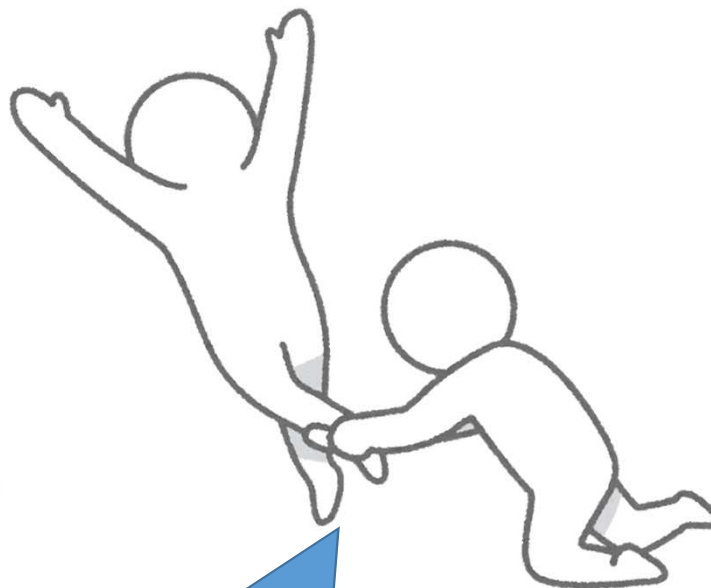
3 これまでの活動と成果3

③ 経営統合に向けた調製と従業員雇用の支援

⇒ 従業員の雇用より経営規模の拡大を優先!



パインプロの経営内容は・・・



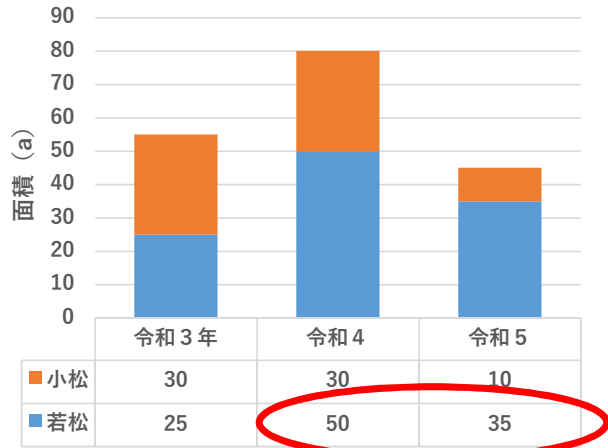
足を引っ張る課題があるのでは？



専門家によるアドバイスを受けるため個別指導会を開催

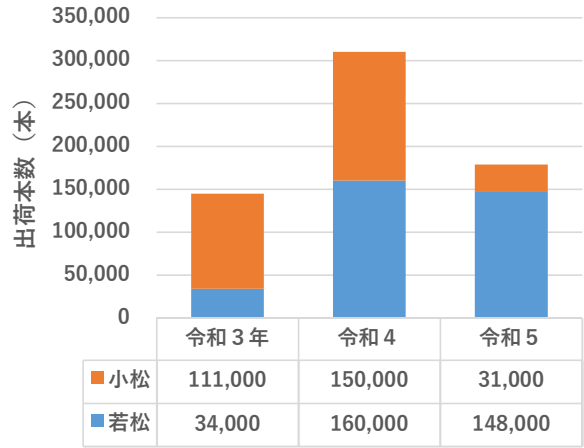
(参考) パイプロ経営データの一部

①収穫面積の推移



R5は15a少ない

②出荷本数の推移 (全体)

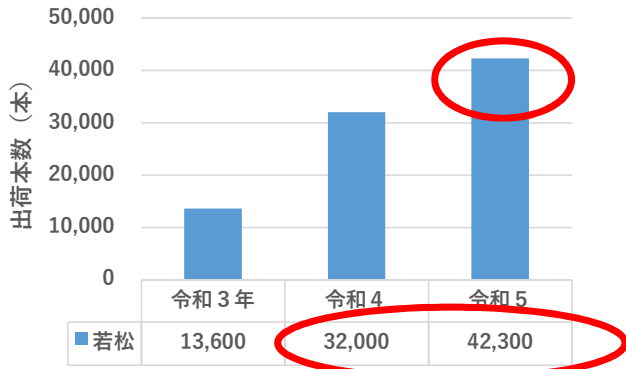


③若松出荷本数の推移



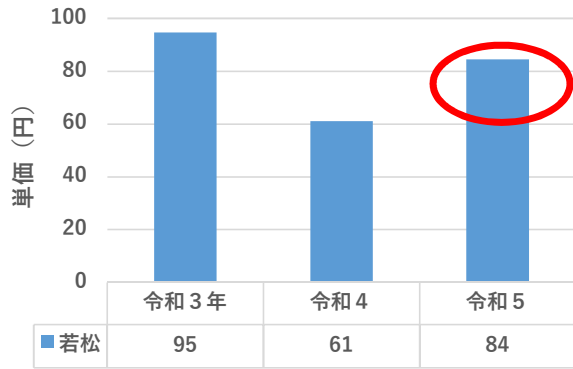
面積は少ないが同程度出荷

④10aあたり若松出荷本数の推移



10a換算では前年比30%増

⑤若松単価の推移



若松の単価が前年差20円増

5 今年度の目標の達成状況

- ① 地域に適したクロマツの栽培技術が確立され、出荷量が増大する。⇒若松10aあたり収量が前年比30%増
- ② 品種選定や開花調製技術の習得により、需要期にきくの安定出荷が可能となる。⇒十分に可能
- ③ クロマツときくの生産体制が整備され雇用が創出される。⇒まずは収益向上。
- ④ 法人の経営面積（クロマツ及びきく）
R3：2.44ha⇒ R4：3.04ha⇒ R5：5.0ha（目標）
⇒R5：4.65ha（実績）

6 対象者からのご意見



11月からクロマツの収穫が始まったが、出荷調製作業の見直しを行い作業効率が上がり、人件費も削減できた。機材配置レイアウトが役に立った。

自家採取用の苗づくりは、当初順調だったが夏季の高温・少雨の影響で立枯れが多くなった。優良な苗づくりの支援を期待する。

(株式会社 南三陸Pine Pro(パインプロ) 後藤代表取締役)



効率的な収穫方法ですが・・・



効率化した出荷調製作業の様子



自家採取ほ場 立枯れが目立ちます。

来年度の対応

- 問題点が残っているので、新規課題として取り組みます。

目標：若松の商品化率を向上させる

内容：①健全な苗づくり及び苗の活着率向上
②出荷調製作業の更なるカイゼン
③若松の品質向上
(計画的な薬剤散布の励行)